

# アフリカの一夫多妻婚

早瀬保子

## はじめに

一夫多妻婚（ポリガミー）は、アフリカの結婚制度の大きな特徴であり、また伝統社会の文化的規範をなすものである。その婚姻形式は、夫が同時に2人以上の妻を持つことである。アフリカ社会では1人の夫と複数の妻および彼女達の子供からなる大家族を理想とし、それは伝統的な農業生産方式に有利な家族構造である。アフリカの男性にとってポリガミーの最大の魅力は、経済的側面にある。すなわち複数の妻を持つ男性は、より広い土地、より多くの食糧を生産、支配でき、それによって蓄積された富により、高い社会的地位を得られることにある（Boserup, 1970）。

今日では、ポリガミーはサハラ以南アフリカ以外の地域では、非常に少ない。例えば北アフリカや中東のイスラム諸国では有配偶の男性の1～7%がポリガミーであるにすぎない。また19世紀のアメリカのモルモン教の男性のポリガミーの割合は10%以下であった（Smith and Kunz, 1976）。これに比較しサハラ以南アフリカのポリガミーの割合は1980年代後半に実施された人口保健調査によると、トーゴ、セネガルなど西アフリカ諸国が有配偶女性の50%前後で最も高く、ケニア、タンザ

ニアなど東アフリカ諸国が20～30%、ジンバブエ、ナミビア諸国など南部アフリカが10～20%と低く、地域により異なった様相を示している（図1）。

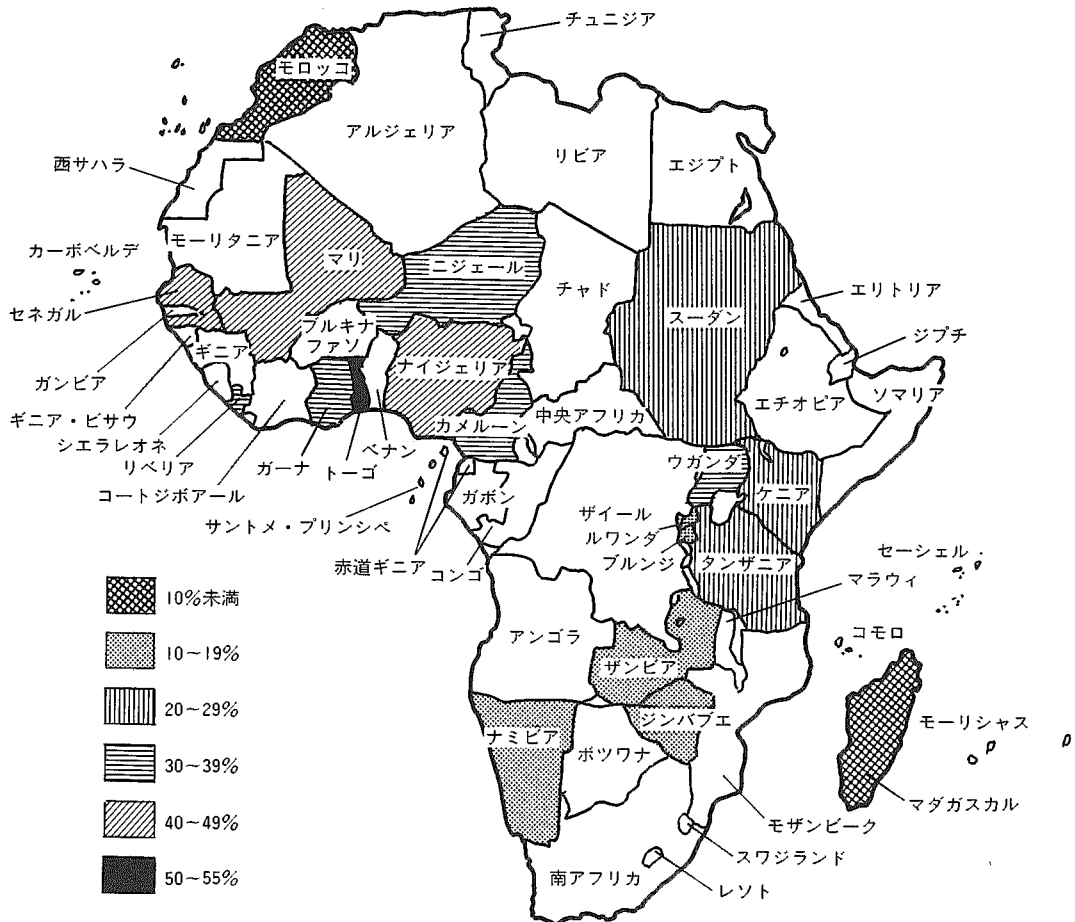
一夫多妻婚は19世紀末の植民地政策、とりわけキリスト教の伝道により、度重なる試練を受け、さらに独立後のアフリカ社会の変化につれ、その割合は南部アフリカ地域をはじめ減少している。しかし、一方で、van de WalleとKekovole（1984）は、セネガルでは過去20年間にむしろ増えたことを示唆している。実際、所得の増加により一部高所得層の男性には、慣習婚に必要な婚資の支払も容易であり、2人以上の妻を養うことも可能である（Pebbley and Mbugua, 1989）。

人口学者の間では、ポリガミーの出生力への影響に関心が向けられているが、配偶関係の不安定性や、最近では性感染症やエイズ患者の急増につれ、ポリガミーとその性的ネットワークとの関連についても深い関心が示されている（Caldwell et al., 1989）。以下にアフリカの婚姻制度と一夫多妻婚の女性の特徴について述べる。

## 1 アフリカの婚姻制度：ジンバブエの例

ジンバブエの婚姻と相続に関する白書によれば、

図1 アフリカ諸国の一夫多妻婚の女性の割合 (1986~92年)



(注) ルワンダ、ブルンジは [diagonal lines pattern].

(出所) Westoff, C. F. (1994), *Marriage and Entry into Parenthood ; Demographic and Health Survey Comparative Series*, No.10, p.19に基づき筆者作成。

ジンバブエには主に次の二つのタイプの婚姻がある。第1が「法律婚」であり、キリスト教の婚姻形式に基づく一夫一婦婚で、重婚は禁止されている。婚姻はローマオランダ慣習法および成文法に従い登録される。白人および一部黒人が法律婚による婚姻に従う。配偶者の一方が死亡の場合、遺産は遺言がなければ死亡者の配偶者と子供に均等に相続される。

第2が「慣習婚」で、慣習法により定められた形式に従って婚姻が成立する。慣習婚は、本来一夫多妻婚である。すなわち夫は一人または複数の妻を持つことが許されている。慣習婚は両家族の同意により成立し、通常花婿側から花嫁側へ婚資（ロボラ）として牛などの家畜数頭またはそれに相当する金銭（数カ月の月収または年収相当の金銭、地域などによりさまざま）を贈る。婚資は、結婚前の

全額完納と、結婚前から結婚後子供の出産まで分割で納められる場合がある。黒人の多くはこの慣習婚に従う。法の下に慣習婚の承認を受ける場合には、所属する地域の法廷で婚姻担当官の下に結婚を申請、結婚登録をする。慣習法による婚姻は、妻の独自の財産を認めておらず、妻の勤労所得も夫により管理されたが、近年女性の地位向上運動の結果改善されつつある。夫が死亡の場合は、遺産は遺言がない場合は長男、または孫（男児）、または夫の長兄に相続され、妻には相続する権利がない。妻の死亡の場合は地域により異なり、シヨナ慣習法では妻の実家の家族集団へ、ンデベレ慣習法では娘に相続される。一夫多妻婚の場合は、それぞれの妻の子供たちに均等に相続される。

筆者の所属するジンバブエ大学開発研究所の秘書モヨさんの婚姻時の状況について紹介しよう。モヨさんは9年前の1986年、23歳の時に、ナイトクラブに勤める30歳の夫と結婚した。ジンバブエの平均初婚年齢は、女性が19歳、男性が25歳であるから2人とも晩婚である。夫は結婚前に彼女の叔母さんに相談、ロボラを打診し（通常、親戚または親の友達を仲介者に立てる）、夫は牛10頭（そのうち1頭は母親に、1頭は婚姻時の食事に供され、残り8頭は父親に贈られる）、両親に各々衣類、さらに現金1250ジンバブエ・ドル（1995年交換率で約1.5万円）を支払った。彼女の両親は農村に住んでいるので牛を要求したが、都市では現金で支払うことが多い。ちなみに牛1頭は当時で200zドル、現在は500zドル位の相場だそう。現在、大学教授の給与は月収7000～8000zドル、講師が5000zドル、秘書は雇用年数にもよるが2000zドル前後、住み込みの家政婦が食事付きで400zドル、庭師が600zドル程度である。もっとも大学の教職員などフォーマル・セクターの被雇用者はさらに所得の40%程度を所得税や積立年金などとして差し引かれる。もし

結婚前から同棲していた場合、男性はロボラの他にさらに損害賠償金（女性は財産の一種と考えられており、親の許可なく同棲すれば財産に損害を受けたとみなされる）を女性の父親に対し支払わねばならない。また離婚の場合、子供がいない場合は妻側の父親から前夫にロボラを返却、子供がいる場合は夫側に子供を引き渡せば返却の必要がないそうである。

モヨさんによれば、ロボラは両家の緊密さを象徴するものとして支払われるそうであるが、実質的には、特に農村では妻の労働力と子孫の繁栄のための代償的な意味合いが大きい。

## 2 一夫多妻婚の女性の特徴

サハラ以南アフリカ諸国の人口保健調査データから、一夫多妻婚の女性の特徴を表1より観察してみよう。人口保健調査は、各国統計局または厚生省が、WHO、Macro Internationalの協力で実施したものである。調査は、各国ともに15～49歳の女性を調査対象とし、共通の調査項目（年齢、配偶関係、教育水準、単婚/一夫多妻婚の別、子供数、家族計画、世帯の特性など）で、訪問調査により行なわれた。

### 1. 中高年女性に多い一夫多妻婚

一夫多妻婚比率は女性の年齢の上昇とともに高くなっている。セネガルの女性のポリガミー比率は15～19歳が29%、20～29歳が38%、30～39歳が61%、40～49歳が62%で、30歳以降急激に高くなっている。しかし、若い女性が高中年女性よりポリガミー比率が低いことから、即、近年一夫多妻婚が減少していると速断するのは危険である。それは、結婚当初は単婚であったが、妻が年を経るにつれ夫が第2、または第3夫人を持つ可能性が

表1 一夫多妻婚の女性の特徴——各属性別一夫多妻婚の割合

(%)

	セネガル	ウガンダ	ガーナ	ケニア	ジンバブエ
調査年次	1986	1988/89	1988	1889	1988/89
標本数	2,850	3,025	2,676	4,563	2,398
全体の一夫多妻婚率	48.4	34.1	31.3	22.6	15.7
合計特殊出生率	6.37	6.06	6.06	6.46	5.31
年 齢					
15～19	28.9	23.3	11.9	13.9	11.2
20～29	37.6	31.7	26.0	17.8	12.2
30～39	61.5	39.1	37.0	25.6	15.5
40～49	62.2	42.0	38.9	31.7	25.6
居住地					
都市	43.8	30.6	28.0	17.5	9.3
農村	50.2	34.5	32.8	24.1	18.3
女性の学歴					
未就学	50.2	35.3	37.8	33.9	29.1
小 卒	39.3	33.6	27.5	20.4	14.7
中 卒	29.5	30.7	18.8	11.1	7.7
高卒以上	11.1	11.1	19.0	0.0	0.0
夫の学歴					
未就学	51.0	35.0	43.4	38.1	27.9
小 卒	35.9	33.9	27.8	23.4	16.2
中 卒	25.2	34.6	23.7	15.0	9.6
高卒以上	26.8	25.2	21.4	10.5	21.2
宗教					
キリスト教	24.1	31.3	26.6	21.1	12.6
イスラム教	49.1	53.2	45.7	28.9	—
伝統宗教	—	—	51.1	—	22.6
霊信仰	—	—	—	—	19.9
その他	42.9	0.0	62.5	23.3	20.3
無宗教	—	—	35.1	45.8	25.0
近代的避妊手段による 避妊実行率 (%)					
一夫一妻婚	3.3	2.4	5.8	20.0	39.0
一夫多妻婚	1.5	2.6	3.7	11.4	21.2
完結出生児数 (人)					
一夫一妻婚	7.36	8.04	7.17	7.84	7.24
一夫多妻婚	6.99	7.61	6.96	7.49	6.51

(出所) 各国人口保健調査 (Demographic and Health Survey) データに基づき筆者算出。

(注) 標本は各国人口保健調査の女子有配偶人口より外国握人口と各種属性(年齢, 居住地, 学歴など)が不詳の人口を除く。ジンバブエについては黒人人口のみを抽出。

あるためである。つまり、最初からポリガミーの夫と結婚する場合、最初は単婚であったが後にポリガミーになる場合とがあるのである。

## 2. 農村に多い一夫多妻婚

農村は都市に比較し慣習婚、特に一夫多妻婚の

割合が高い。ジンバブエでは、都市が9%に対し農村は18%で、都市、農村間で大きな格差がある。

## 3. 低学歴者に多い一夫多妻婚

女性の教育水準と一夫多妻婚とは高い負の相関がみられる。ジンバブエについて教育水準別にポ

リガミー比率を観察すると、女性の場合には未就学が29%、小卒が15%、中卒が8%、高卒以上が0%と、高学歴者ほどポリガミー比率は低くなる。ところが夫についてみると、未就学が28%、小卒が16%、中卒が10%とポリガミー比率は中卒までは徐々に低下するが、高卒以上の高学歴者は21%と反転する。高学歴の夫は、概して高所得者であることから、2人以上の妻を持つ余裕があるためである。教育水準は婚姻制度に対し、男女で異なったインパクトを与えることが示される。

### 4. イスラムと伝統的宗教の信者に多い一夫多妻婚

宗教と婚姻制度の関係を観察すると、キリスト教徒はその宗教的信条からも一夫一婦婚が多く、その他の宗教は一夫多妻婚が多い傾向がみられる。ガーナについて宗教別にポリガミー比率をみると、伝統的宗教信者が51%で最も高く、次いでイスラム教徒が46%、無宗教または無神論者が35%、キリスト教徒が最も低く26%である。この結果はポリガミーがアフリカの伝統、文化的規範と密接な関連があること、また、アフリカの文化、慣習が宗教を問わず人々の生活の中に深く浸透していることを窺わせる。

### 5. 一夫多妻婚と出生

一夫一婦婚/一夫多妻婚別に家族計画の実行率を比較すると、一夫多妻婚の女性は家族計画の実行率が低いことが示される。また40～49歳の女性の出生児数（完結出生児数）は、ポリガミーの女性の方が一夫一婦婚よりやや少ないことが認められる。しかし、ポリガミーの比率が比較的高いセネガル（48.4%）と低いジンバブエ（15.7%）の間には避妊実行率、合計特殊出生率（女性の生涯平均子供数）で大きな格差が示される。アフリカの伝統的婚姻制度である一夫多妻制は、出生力に高い価

値を与えていることが示唆される。

## おわりに

人口保健調査（DHS）から、一夫多妻婚はアフリカ人の伝統社会でなお根強く残っていることが知られる。ポリガミー比率は、西アフリカ諸国、イスラムや伝統宗教の信者、中高年層、低学歴者および農村居住者になお高い傾向が認められる。

今後一夫多妻婚は衰退するであろうか。それは疑いもなく、一夫多妻婚の経済的インセンティブを減少させるであろう将来の農業システムに密接に関連しているといえるであろう。もちろんポリガミーの魅力は、経済的動機ばかりでなく、子孫繁栄であり、これらが有効である限り、ポリガミーは宗教的、法的な規制があろうと存続するであろう。

しかし、アフリカにおいても、経済的社会開発が進展し、他の途上地域が歩んだ道を速度こそ異なれ従うこととなれば、早晚、都市化、教育水準の向上、就業構造の転換などが起こり、そのような社会構造の変化を通じて、ポリガミー比率は低下することが予想される。

### 〔参考資料〕

- Boserup, E. (1970) : *Women's Role in Economic Development* (New York, St. Martin's Press).
- Caldwell, J. C., Caldwell, P. and Quiggin, P. (1989) : "The Social Context of AIDS in Sub-Saharan Africa," *Population and Development Review*, 15, 185-234pp.
- Pebbley, A. and Mbugua, W. (1989) : "Polygyny and Fertility in Sub-Saharan Africa," in ed. R.J. Lesthaeghe, *Reproduction and Social Organization in Sub-Saharan Africa* (Berkley, University of California Press), 338-364pp.

Smith, J. and Kunz. P. (1976) : "Polygyny and fertility in nineteenth century America," *Population Studies*, 30(3), 465-480pp.

van de Walle, E. and Kekovole, J. (1984) : "The Recent Evolution of African Marriage and Polygyny," Paper presented at the annual meeting of the Population Association of America, Mineapolois, Minn.

Westoff, C. F., Blanc, A .K. and Nyblade, L. (1994) : *Marriage and Entry into Parenthood: Demographic and Health Surveys Comparative Studies*, No.10, Macro International Inc., Calverton, Maryland, U. S. A.  
*White Paper on Marriage and Inheritance in Zimbabwe*, the Government Printer, Harare, n.d.

(はやせ・やすこ／在ハラレ海外調査員)